

学会記事

2008年度 第10回理事会 議事録

2009年2月27日
日本地質学会
会長 宮下純夫

期 日：2009年2月14日（土）

13：00～18：30

場 所：地質学会事務所

出席者：宮下会長、高木副会長、佃副会長、
渡部常務理事 藤本副常務理事 井龍 石
渡 上砂 齋藤 坂口 久田 藤林 向山
矢鳥（3時で早退）各理事、橋辺（事務局）
欠席者：岩森 倉本 小嶋

* 成立員数（12/17）に対し、出席者14名、
委任状3名、欠席者0名で、理事会は成立。

○報告事項

1. 運営財政部会（部会長-上砂、向山、倉
本、坂口）

総務委員会（委員長-上砂）

- ・地球化学研究協会「三宅賞」「奨励賞」
の募集、締切8/31、HP、News誌に掲載。
- ・東京地学協会主催「IYPE記念<地球と
ハーモニー>講演とコンサートの夕べ」
(5/2、カザルスホール)の後援依頼があ
り承諾。

・地球惑星科学連合への加盟登録申請

・地球惑星科学連合より「環境・災害対応
委員会」へ委員推薦の依頼があり、応用
地質部会から横山俊治会員、環境地質部
会から小荒井衛会員の選出を受け、災害
および環境としてそれぞれを推薦した。

・地球惑星科学連合より、学術出版委員会
委員の推薦依頼があり理事会より井龍理
事を推薦。

・高知大学海洋コア総合研究センターより
共同利用施設拠点認定のための要望書提
出要請があり、要請の経緯等を確認した。
その結果、至急会長名で提出することと
した。

・富山大学極東地域研究センター準教授の
募集、広島大学地球惑星システム学教授
の募集→News誌、geo-flashに掲載

会員関係（担当理事-向山）

1) 入会者 3名（正1、準2）

（正）小尾 靖、杉戸信彦、（準）鈴木慎
人

2) 退会者 なし

3) 逝去者 3名（名誉2、正1）加藤磐
雄（08/12/27）、松本達郎（2/7）、（正）
鎌田泰彦（1/10）

4) 1月末日会員数

賛助33、名誉74、正4,325（うち院246）、
準28、合計4,460（前年同期比-113）

5) 岩手・宮城内陸地震による2009年度会
費免除の申請1件あり。

（正）佐々木繁喜（岩手県一関市）

地球惑星科学連合（久田連絡委員）

・連合法人整備委員会（高木委員）

2月13日開催の委員会報告

個人会員登録状況 2月13日現在で
3256名

地質学会員の個人登録数は578名（地
震学会に次いで2番目）

団体加盟については、地質学会は近日
中に登録する予定

5月の連合大会では学協会エリアに学
会ブースを出展することとした

新たな学会紹介のパンフレットを作成
（広報委員会が主担当）

・連合情報委員会（坂口委員）

1月29日開催の委員会報告

連合の最新情報システム（予定）のポイント
は以下の通り。

- 1) 会員管理、選挙、大会登録、大会要旨
投稿、HP、メルマガサーバーを統合
- 2) 日本語、英語の二言語化の徹底（エ
ラーメッセージを含む）
- 3) オリジナルプログラムで構築

会計関係（担当理事-向山）

・来年度の予算について

会計委員会を開催して検討

・年会業務委託の経費について

・任意団体と一般法人との間の業務経費に
ついて

法人の予算案を作成

月額10万円程度 地質学会が法人設立時
に拠出

3月31日までは法人は公益認定のための
書類作成などの費用を計上

日常業務は任意団体に委託することとし
た、任意団体と法人で覚書

社団法人の本年度理事会を3月に開催し
て今年度予算を承認することとした

社団法人の次年度理事会を4月に開催
し、決算承認、来年度予算・事業計画案
承認

・事務局員の労働条件などを、雇用担当理
事が詰めることとした。

2. 学術研究部会（部会長-石渡）

行事委員会（担当理事・委員長-齋藤）

1) 岡山大会準備状況について

・岡山大会の運営企画等を業者委託するに
あたり、業者から契約書、仕様書および
経費（業者への委託費）の見積り（資料

参照）が出た。仕様書及び先に出されて
いる年会全体の運営経費の見積りについ
ては会計の意見も加えて、これまでの年
会経費の現状に照らして収支とも、さら
に詰めて再検討するよう依頼した。業者
への委託経費の合見積りおよび仕様書の
改訂版、業務区分表が改めて提出された。
講演要旨集や見学旅行案内書に掲載する
広告募集を業者が行うことなど新たに盛
り込まれた。理事会からの全体予算はお
およそ札幌大会実績額前後に抑える必要
があるとの意見を受け、業者から再検討
の結果を待って契約締結の方向で手続き
を進めることを了承。

・岡山大会においても見学旅行案内書冊子
版の作成が希望されていることについて
支部としては熊本大が見学旅行案内書の
作成を担当予定

岡山大会では冊子版の作成を認めること
とするが、見学案内書の今後の方針につ
いて、引き続き検討を行うこととした。

・講演申込については今年もJ-STAGEの
申込システムを利用する事で、画面準備
等を開始した。

・地質情報展支援委員会（開催1月27日）

日時は、9月12-13日。前日の11日に内
覧会の予定

会場は、岡山駅西口前のデジタルミュ
ージウム（NHKと全日空ホテルが同じ建
物）

初日はジオパーク関係のWS+教育委員
会+地学オリンピック関連展示

地学教育委員会関係

加古川東高校の過去の研究成果の展示を
了承いただいた。同校には何らかの表彰
を行うことも今後検討

・大会会場 岡山理科大学

メイン会場はCブロック25号館、設備は
充実しており、25号館内でほとんど大会
行事の全てができる。会場使用料は135
万円

専門部会連絡委員会（担当理事-藤本）

・法人の専門部会規約作成

構造地質部会の規則案をもとに、専門部
会長に作成を依頼する。

国際交流委員会（担当理事-石渡=国際特
任理事）

・日韓地質学会の学生交流を進めるため
に、学生巡検などで現地での交流が積極
的に行われるよう、韓国地質学会会長あ
てに宮下会長から依頼状を送付。3月に新
潟大学の韓国巡検を行うにあたってこれ
を適用。なお、同巡検はこれまででも2
回行われており、現地の先生や大学等の
お世話を受け、交流も行っている。

3. 編集出版部会 (部会長-久田, 小嶋, 岩森, 井龍)

地質学雑誌編集委員会 (委員長-久田 副委員長-小嶋, 岩森=企画担当)

・今月の編集状況は以下の通りです (2月12日現在).

115-01月号: 論説3 口絵1 (48p 1月末発送済み)

115-02月号: 論説3 短報1 口絵1 (50p.校正中)

2009年度投稿論文総数 5編 [論説2 (和文2), 総説1 (和文1) 短報2 (和文2).]

投稿数昨年比 -9 査読中77編 受理済み10編 (うち 論説6 短報1 ノート1 口絵3 特集号11)

・編集規約一本化の原案作成の最終調整案の紹介

主な変更点としては, 文献やキャプションなどの英文表記, 特集号刊行に当たって

非会員の原稿の取扱いなど.

理事会で出された意見としては, インターネット資料の引用を認めるべきではないか,

J-STAGE上の図版のカラー化など.

・特別号原稿査読への抗議文への対応について以下の報告を了承した.

編集委員会では, 1月20日に拡大編集委員会を開催し, 引き続き受理に向けて必要と判断される要修正部分を検討した結果, 当初 (平成20年11月21日付) の査読結果を変更するに至らなかった. この結果を編集委員長より著者らに通知した.

Island arc編集委員会 (担当理事-井龍, 事務局長-竹内圭史・角替敏昭)

・編集状況報告

・掲載待ち期間に関する問題について一般の受理原稿の掲載に時間がかかるため, Early viewの容量拡大をB&Wと交渉

・アイランドアークの事務局関係について2010年3月末で現在の産総研との共同研究契約が切れるので, その後の方針を継続して検討することとした

・Island Arc Award決定について紹介された.

企画出版委員会 (担当理事-藤林)

・国立公園地質リーフレット: 「屋久島」はほぼ最終原稿が完成.

・地方地質誌「近畿地方」3月刊行

・高橋正樹会員からリーフレットシリーズへの提案について

高橋企画について審議するとともに, 国立公園リーフレットの位置づけ, 公益法人の中でアウトリーチ出版物の位置づけなどについても議論した. その結果, 高橋企画についてはとりあえずペンディングとすることとした.

4. 普及教育事業部会 (部会長-矢島, 藤林) 国際地学オリンピック日本委員会 (久田) 地質学会HPにオリンピック関係の情報をアップロードした.

地学オリンピック委員会がNPO法人化された.

5. 各委員会等

支部長連絡会議 (担当理事-高木)

・支部規約モデル案の再検討

最低限の必要なことを規則としてまとめ, 細かいところは細則を設ける案を理事会で検討する.

・支部総会の定数の不統一については, 各支部に対しても検討を打診中.

・支部長と支部担当理事の選出法などは検討課題

・今後の支部財政は本部財政と一体化するので, どのような形態にするかを検討

JABEE委員会 (委員長-天野)

・日本技術者認定機構の臨時総会が2/12に開催され, 橋辺事務局長が代理で出席. 法人化に関する6件の議案はすべて全会一致で可決された. これによって同機構は4月1日に一般社団法人として登記を行い, 財産および会員は登記後新法人へ移行する.

ジオパーク支援委員会 (担当理事-佃, 委員長-天野)

・ジオパークパンフレットを作成 (3000部) し, 各方面に配布を開始.

なお, 個別に大量の注文があった場合には, 実費で配布することとした.

パンフレットの内容はHPにも掲載し, ダウンロードできる.

・日本ジオパーク委員会 (高木委員)

2月10日, 日本ジオパークネットワークの設立が合意され, 5月15日に設立される.

2月20日, 「日本ジオパーク記念式典」を開催 (地質学会後援).

地質学会からは天野ジオパーク支援委員長に出席を依頼することとした

法人化作業委員会 (担当理事・委員長-渡部)

・神田税務署および千代田都税事務所それぞれ法人設立届を提出した.

法務委員会 (担当理事・委員長-上砂)

・1月20日18:30より学会事務局において法務委員会を開催した.

1) 除名申請に対する法務委員会の結論

除名を申請する2件の申立書を2007年12月26日に受理し, それぞれ2007年 (除) 第1号事件および2007年 (除) 第2号事件として取り扱った. 両事件とも1年かけて審議した結果, 事実認定する十分な

証拠が認められないとして却下することにした. 申請人, 被申請人に対しては会長名で通知書 (審議結果) を出す準備中である.

2) 地質学会3規則について検討した.

3) 国立公園などの地表踏査について, 土地立ち入り許可申請などの見本を検討した. 厳密に行い過ぎると調査・研究に支障が生じることも考えられ, 学会としてはコンプライアンスを十分守りつつ, 調査・研究を進めることを啓発する. 国立公園の位置・範囲, 特別天然記念物に指定されている17件の地質・鉱物などの自然物, 世界遺産などについては学会のWebsiteに掲載し注意を促すのが望ましい. 他団体や機関が手続き関係について公開しているので, それらを参考にする.

名誉会員推薦委員会 (委員長・担当理事-佃副会長)

・名誉会員候補者推薦は2月13日に締切られ, 6名の推薦があった.

これから審査プロセスに入ると報告. 4月の評議員会で承認, 総会で決定し秋の年会で授与式をおこなう.

6. IYPE日本 (佃副会長)

・1st World-YES Congress 2009; 第1回若手地球科学者会議 (2009/10/25-28, 北京)

上記会議への若手研究者, 技術者の派遣要請について

地質学会としては, 広報を行う. 参加費の援助 (20万円程度) はできない.

・IYPEの広報パンフレット作成し, IYPE日本事務局で配布中

○審議事項

1. 法人化

1) 支部規約モデル案の再検討

支部長連絡会議の項を参照.

2) 任意団体及び社団法人の今後の会議等について

・3月の理事会と同日に法人理事会を開催する. 法人理事への議案説明と委任状を早急に作成, 発送することとした.

・4月4日に任意団体評議会開催し, 同日に法人理事会を開催

・以上を含めた年度末から4月にかけての学会スケジュールを, 理事会としてとりまとめる. さらに, 任意団体の学会活動と法人活動の双方を明確に分離して管理する事とし, 任意団体の学会活動は常務理事, 法人活動のスケジュール管理は副常務が担当することとした.

2. その他

1) 連合大会における地質学会加入宣伝の件

地質学会の新しいパンフレット作成については, 前回作成パンフレットの内容を参考とし, 公益法人化も見越したものと

する。坂口広報担当理事に次回理事会までに検討いただく事とし、最終的に連合大会に印刷が間に合う事を目指す。

2008年度 第11回理事会 議事録

2009年3月26日
日本地質学会
会長 宮下純夫

期 日：2009年3月14日（土）

10：30～17：00

場 所：地質学会事務所

出席者：宮下会長、高木副会長、渡部常務理事 藤本副常務理事 井龍 上砂 小嶋 齋藤 坂口 久田 藤林 向山 矢島（13時で早退）各理事、橋辺（事務局）

欠席者：佃副会長、石渡 倉本 岩森 各理事

* 成立員数（12/17）に対し、出席者13名、委任状2名、欠席者2名で、理事会は成立。
* 前回議事録の承認

○報告事項

1. 運営財政部会（部会長-上砂，向山，倉本，坂口）
総務委員会（委員長-上砂）
 - ・ 2月20日の「日本ジオパーク記念式典」開催（地質学会後援）に際し、祝電を送った。
 - ・ 埼玉大学地圏科学研究センター（渡辺邦夫センター長）、信州大学山岳科学総合研究所（公文会員）から、共同利用施設拠点認定のための要望書提出要請があり、提出した。
 - ・ 学術会議より、「知的財産制度の在り方についてのアンケート調査」があり、回答した。
 - ・ 東レ科学振興会の「理科教育賞文部科学大臣賞」を杉山了三会員（盛岡一高）が受賞。授賞式に高木副会長が出席。
 - ・ H21年度東レ科学振興会「科学技術賞，科学技術研究助成」（10/9締切）推薦募集要項→News，HPに掲載
 - ・ 産総研とのH21年度共同研究「地質科学分野におけるオンライン化の将来動向に関する研究」の契約書を交わした。
 - ・ 以下の学協会から後援，共催の依頼があり，承諾した。→News，HPに掲載
原子力総合シンポジウム2009（原子力学会，5月開催）の共催
2009年度地球化学会年会（9月15-17，広島大学）共催
第53回粘土科学討論会（粘土学会，9月10-11日，岩手大学）共催
 - ・ 筑波大学「科学の芽」賞（2回目）実施報告があった。応募数1248件（団体71件

含む）年々増加。平成21年度の共催についても依頼された。受賞：小学生部門11（1），中学生部門9（1），高校生3（1）
・ 学術著作権協会から，2008年度複写使用料として48,350円が分配される。
・ 日本学術振興会から，H22年度採用分の特別研究員および特別研究員RPDの募集→News，HPに掲載

会員関係（担当理事-向山）

- 1) 入会者 6名（正2，院1，準3）
（正）佐川拓也，川勝和哉，（院）西塚大（準）齋藤直樹，溝口愛美，大野佳緒里
 - 2) 退会者（正6）小池澤耕二，帆足雅通，高橋克之，伊東佑初子，Woldemichael Binyan 李野修士
 - 3) 逝去者 なし
 - 4) 2月末日会員数
賛助33，名譽73，正4,321（うち院246），準29，合計4,460（前年同期比-117）
 - 5) 3月末日退会予定者 賛助3社，正87名，院6名，準1名
 - 6) 3月末日除籍予定者 正94名
地球惑星科学連合（久田連絡委員）
・ 連合法人整備委員会（高木委員）
本年3月初めの時点での本学会からの個人会員登録数は3459名との報告。
地理関連学会連合（担当理事-藤本）
・ 3月27日総会の開催
会計関係（担当理事-向山）
・ 3月3日会計委員会を開催
来年度の予算についての検討内容が報告され承認された。
任意団体と一般法人との間の業務経費等の覚書について承認した。
広報委員会（担当理事-倉本=情報特任・坂口）
Webサイトの整備計画について説明があり，承認した。
広報誌ジョルジュの原稿の仕上げ作業をアウトソースする方向で検討する事とした。
2. 学術研究部会（部会長-石渡）
科研費などの報告書に公表論文のコピーを添付することは著作権法などに違反するかどうかという問い合わせが会員から事務局にあった。法的に問題がある可能性があるため，法務委員会で検討し，検討結果をニュース誌などで会員に周知することとした。また，同時に，査読中の投稿論文へのコメント等も編集委員会の著作権が保護されている事も紹介する。
行事委員会（担当理事・委員長-齋藤）
・ 岡山大会準備状況について
シンポジウムの内，希ガス年代関連のシンポは，岡山大会全体を日本地球化学会との共催とすることにより，会員外講演枠の制限をクリアするとの説明があり，同学会との共催とすることを承認した。
・ アカデミックブレインズとの岡山大会の

事前事務局役務および会期中の業務委託について，請書を交わした事が報告された。

国際交流委員会（担当理事-石渡=国際特任理事）

- ・ 3月に新潟大学の韓国巡検を行うに際し，韓国地質学会会長あてに宮下会長から交流の依頼状送付に対し，韓国地質学会李会長より賛同と協力の返事があった。（MLで回送済み）
 - ・ 日蒙交流委員会の高橋委員長より，日本とモンゴル地質学会との交流協定覚書調印にからめてモンゴルでのシンポジウムの計画を打診，それに対しモンゴル側から，連携関係には前向きだが，モンゴル（地質学会）の経済状況などからシンポジウム等の開催については各方面と連絡をとりながら検討することとした。
地質環境の長期安定性に関する委員会（委員長-吉田英一）
 - ・ 2年度に渡って編集出版予定であったリーフレットの第一部は，原稿完成が年度内からずれ込むとの報告があった。
3. 編集出版部会（部会長-久田，小嶋，岩森，井龍）
地質学雑誌編集委員会（委員長-久田 副委員長-小嶋，岩森=企画担当）
 - ・ 今月の編集状況は以下の通り（3月11日現在）。
115-03月号：論説2 ノート1 口絵1（45p.校正中，3/23校了予定）115-04月号：論説3 短報1 口絵1（43p.校正中）
2009年度投稿論文 総数8編 [論説3（和文3），総説2（和文2）短報2（和文2），ノート1（和文1）] 口絵1（欧文1）
投稿数昨年比 -5 査読中60編 受理済み18編（うち論説2 特集号16）
 - ・ 編集規約一本化の原案が報告され，検討した。
非会員原稿の扱いと，リジェクトの手続きについて確認した。冊子版でモノクロの図版について，J-STAGEでの公開に際しては，希望があれば実費でカラー図版を掲載できる事とし，経費ならびに具体的な実施方法を検討することとした。巡検案内書のJ-STAGE掲載PDFは，今後発行されるものはセキュリティーフリー（コピー可能）とした。
 - ・ 地質学雑誌の補遺となった後の見学旅行案内書の冊子版の定期刊行化に関し，年会の見学旅行担当者に対し編集状況等を調査し，その結果が報告された。別印刷物ではなく雑誌通常号への掲載等を検討するにあたっては，これまでの案内書の編集体制を再検討する事とし，継続審議とした。
 - ・ 編集会議を5/17（12：30-13：30）に開

催予定(地球惑星合同大会会場)。
Island arc編集委員会(担当理事・井龍, 事務局長・竹内圭史・角替敏昭)

- ・編集状況が報告された
一般投稿数の減少は、受理後掲載までの待ち時間が主要な原因かもしれない。また、出版社の印刷ミスが多く、投稿者からの評価が下がる恐れがある。早急に出版社との編集会議が予定されている。
- ・IAR編集規約・事務局規約の改正案を検討

企画出版委員会(担当理事・藤林)

- ・国立公園地質リーフレット「屋久島」は印刷校正を理事会として確認、いくつかの改善意見への対応をいただいた上で刊行を承認した。
- ・地方地質誌「近畿地方」(朝倉書店)が刊行された。
- ・地層処分関係のリーフレットの進捗状況、今年度内の刊行は間に合わない、5月の連合大会までには出したいとの意向。編集委員会から、出版経費を来年度に繰り越したいとの要望を承認した。
- ・リーフレットシリーズ企画出版委員会の設置案を検討した。

4. 普及教育事業部会(部会長・矢島, 藤林)

- ・教員免許更新講習は、地球惑星関連学会の中で、昨年12月より前に一般社団法人となっていた地震学会のみが実施できることがわかった。現在、各大学での地学関連講習講座の申請状況を把握中。資料が回覧された。

国際地学オリンピック日本委員会(久田)

- ・来年3月に次回候補者が選出された段階で、候補者への研修会をつくばで実施する企画が紹介された。オリンピック日本委員会、連合、地質学会産総研・JAMSTEC等の共同事業として、今後具体的な計画を詰める方向で検討する事とした。

5. 各委員会等

JABEE委員会(委員長・天野)

- ・JABEE法人化後の分野のグルーピングや理事選出ルール等の検討のため参画分野および委員派遣分野のアンケート調査があり、これまでどおり「地球資源およびその関連分野」と回答。
- ・3月19日事務局長会議開催

ジオパーク支援委員会(委員長・天野)

- ・ジオパークパンフレットをNews誌3月号にとじこみ掲載して会員にも広報する。また、杜誓町から2000部の要望があり、パンフレットを増刷して実費で頒布することとした。今後、他からも多量の注文があった場合には、同様に応ずる予定。

・日本ジオパーク委員会(高木委員)

今回の日本ジオパーク並びに世界ジオパーク申請の受付が、4月1日～6月19

日となる。

本年度の世界ジオパーク申請候補の3カ所については、資料修正等の対応中との報告

法務委員会(担当理事・委員長・上砂)

- ・学術研究部会の報告を受けて、科研費などの報告書作成の際の注意について、News等に掲載する広報原稿案を作成、理事会及び委員会で検討のうえ会員に広報するとの報告があり、承認した。

名誉会員推薦委員会(委員長・担当理事・佃副会長)

- ・候補者の選考中、選考基準などについてこれまでの内規等の整理を行う必要がある。

6. 地質の日委員会(藤林委員)

- ・地質の日の新しいポスターができた。
- ・今年の地質の日の学会本部行事の企画、実施を検討し、一般市民普及講演会を開催する事とした。講師として京都大学の鎌田浩毅会員に打診、会場は科学博物館を候補とする事とし、3月25日までに案出することとした。

○審議事項

1. 法人化と事業移行措置についての基本方針

来年度末をめざした事業の移行措置についての基本方針を固め、4月の評議員会に報告する事とした。詳細内容の説明資料を作成し、評議員ならびに会員に周知する事とした。

2. 公益法人認定申請についての再確認(特にスケジュール等)

申請内容のうち、公益事業についての詳細を検討し、5月の総会に提案する事とした。これを受けて、本格的に申請作業に移る。

3. リーフレットシリーズ企画出版委員会の設置について

委員会の設置を承認し、4月発足に向けた委員会規則の完成と委員委嘱を急ぐ事とした。

4. IAR編集規約・事務局規約の改正案についての検討

次回までに修正部分について、オンラインで理事会討議を進める事とした。

5. 評議員会議題について

決算案・新年度予算案、事業計画等に加え、事業の法人移行と公益法人認定申請に関する事などを審議事項とする。

6. 総会議案について=3月号News誌で広報予定

総会の日程は、5月17日、午後5時45分から7時30分まで、幕張メッセで開催する。

決算、予算、事業計画、名誉会員に、任意団体の解散方針を加えた議案を、評議員会で確認する事とした。

2008年度 第3回 定例評議員会議事録

2009年3月19日

日本地質学会評議員会
議長 保柳康一

日時:2008年11月30日(日)

12:30-13:55

会場:学士会館 201会議室(東京都千代田区神田錦町3-28)

出席者:(評議員18名) 荒戸裕之 卜部厚志 永広昌之 大友幸子 北里 洋 柴 正博 新妻信明 保柳康一 足立勝治 岡 孝雄 木村 学 公文富士夫 紺谷吉弘 高橋正樹 滝田良基 松原典孝 吉川敏之 渡辺真人

(理事14名) 会長 宮下純夫 副会長 高木秀雄 渡部芳夫 石渡 明 井龍康文 岩森 光 上砂正一 倉本真一 坂口有人 斎藤 眞 藤林紀枝 向山 栄 藤本光一郎 矢島道子(事務局) 橋道菊恵

欠席者 評議員(委任状14名):磯崎行雄 伊藤谷生 小山内康人 狩野謙一 佐々木和彦 沢田順弘 芝川明義 中川光弘 堀利栄 松岡 篤 三宅康幸 山路 敦 山根 誠 脇田浩二

欠席者 評議員(委任状なし7名):阿部国広 安藤寿男 磯野 清 川端清司 松本俊幸 丸山茂徳 村山雅史

理事(3名) 佃 栄吉 小嶋 智 久田健一郎

*出席者成立員数(20/39)に対し、出席18名、委任状14名で、評議員会は成立。

12:30 開会(保柳議長)

12:30-12:32 宮下会長挨拶

12:32-12:33 書記選出

(高橋正樹・荒戸裕之)

○報告事項

1. 理事会報告(常置および外部委員会、研究委員会含む)

(1) 運営財政部会

1) 総務委員会(部会長・上砂)

・富山県人づくり財団、平成21年度「とやま賞」候補者として、石崎泰男会員(富山大学)を推薦することとした。

・ゼオライト学会、国際会議「ZMPC2009(International Symposium on Zeolites and Microporous Crystals 2009)」(2009年8月3日-8月7日、早稲田大学)の共催を承諾。

・琉球大学熱帯生物圏研究センター共同利用研究会「有殻原生生物プランクトン研究はどこに向かうのか」(2008年11月28-29日、松岡 篤会員より要請)の後援を承諾。

・石専門の写真家須田郡司氏より、「世界石巡礼」(2009年4月開始)の後援依頼